

〔 研 究 〕

腹部超音波時に偶然に発見された 4才児の卵巢未熟奇形腫について

比嘉 万里 瑞慶山良助 染谷みさ子 高良 佳弘
屋良 朝昌 島田 篤子 佐々木 淑 (婦人科)

(はじめに)

卵巢奇形腫は、10～20代前半に好発する卵巢腫瘍の一種で、全卵巢腫瘍の20%を占めるといわれている。しかし、その中の未熟奇形腫は充実性腫瘍の1%前後と稀な腫瘍で、悪性の胚細胞性腫瘍の20%を占めるといわれている^{3) 4)}。

今回我々は、腹部超音波検査時に偶然に発見された、極めて稀な4才児の低年齢者の未熟奇形腫を経験したので、その超音波所見について文献的考察を加えて報告する。

(装 置)

アロカSSD-650、プローベは3.5 MHzコンベックス、5 MHzリニアを使用。

記録は、フジサーマルプリンターFT-210を使用。

(症 例)

4才、女児、既往歴—感冒以外に特記事項なし。

主訴—半年前より右ソケイ部に腫脹を認め時に腹痛、頻尿も訴える。ソケイヘルニア疑いのため腹部超音波検査を施行する。

(血液、生化学所見)

血液：WBC 108×10^2 、RBC 474×10^4 、Hb

12.6 g/dl、Ht 35.2%

生化学：TP 7.1 g/dl、T-Bil 0.5 mg/dl、GOT 34 IU/l、GPT 12 IU/l、LDH 717 IU/l、AL-P 672 IU/l、r-GTP 11 IU/l、LAP 741 IU/l、Glu 86 mg/dl、BUN 13.4 mg/dl、Cre 0.7 mg/dl

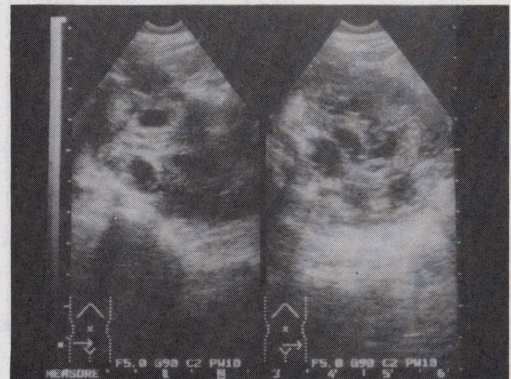
腫瘍マーカー：CA19-9 240 U/ml、CA125 200 U/ml、AFP 330 ng/ml

血液、生化学所見は小児としては異常をみとめないが、腫瘍マーカーは異常値を呈している。

(超音波所見)

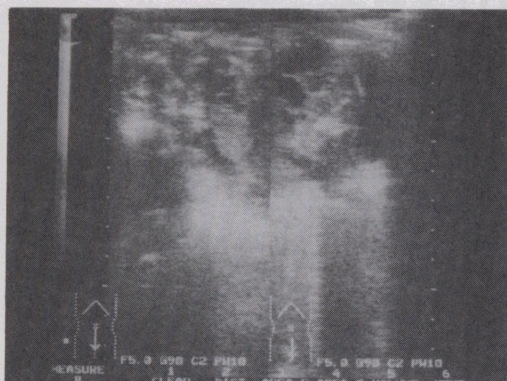
腫瘍の超音波横断、縦断像。

写真1



横 断 像

写真2

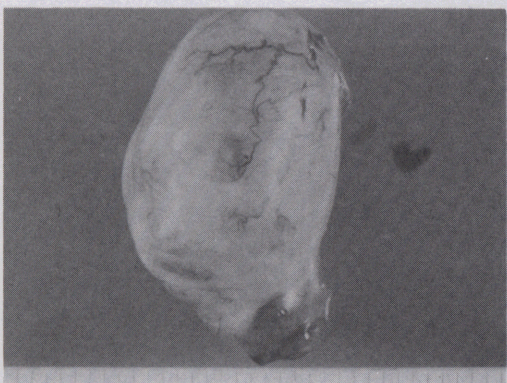


縦断像

下腹部正中に膀胱を圧迫する93×69mm程度の、のう胞が混在するストロングエコーを伴う充実性の腫瘍を認め、全体的に底面エコー増強するため充実部もソフトなものと思われる。ヘアボール所見は、認めなかった。

断面では、多数の、のう胞を有する充実性の腫瘍で、軟骨、粘液腫が認められ、超音波所見とも一致した。マクロにおいて毛髪も認められた。

写真3



摘出された腫瘍

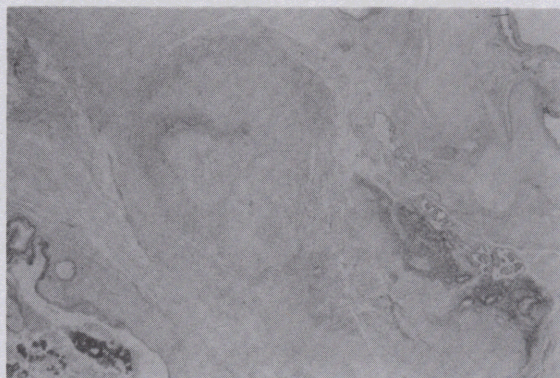
写真4



腫瘍の断面

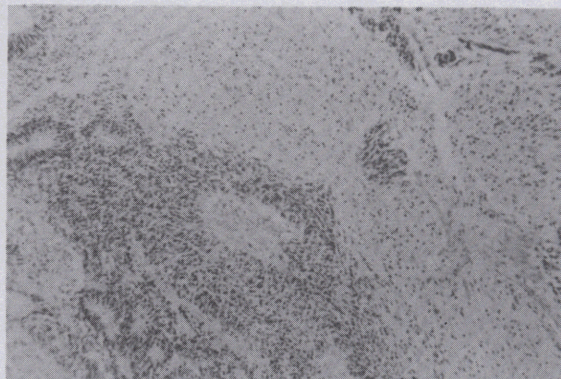
病理組織検査で、未熟奇形腫と診断された。

写真5



病理・組織

写真6



病理・組織

組織中に、未熟な外胚葉、中胚葉、内胚葉由来の種々の組織が認められる。

(考 察)

小児の卵巣腫瘍は極めて稀で、特に腫瘍が充実性、あるいは半充実性であれば80%は悪性を念頭におく必要があるといわれている¹⁾。

奇形腫は、卵巣腫瘍の20%を占め、その中の1%が未熟奇形腫であるといわれ、成熟奇形腫に比べ有意に大きく10cmをこえるものが普通といわれている。未熟奇形腫は発育が早く、症状発現前にしばしば巨大になるといわれ⁵⁾、今後スクリーニングを重ね、症状発現前の発見に努めていきたいと思う。

(ま と め)

本症例は、ヘルニアの疑いがあり下腹部の

超音波検査は当然であるが、我々は、上腹部検査時に同時に下腹部の検査も施行し、卵巣茎捻転等の急性腹症及び、卵巣腫瘍、大腸腫瘍、膀胱腫瘍等も偶然に発見しており、上腹部検査時に下腹も同時にスクリーニングすることにより、婦人科、泌尿器科領域における悪性腫瘍の早期発見に役立つものと思われる。

(参 考 文 献)

1. 腹部画像診断 1993、VOL13、No.4
2. 産科と婦人科 1991、VOL58 Suppl 1
3. 産科と婦人科 1992、VOL59、No.5
4. 産婦人科の実際 1992、VOL41、No.2
5. 小児科 1986、VOL27、No.3